

「びわ湖の日」40周年の取組およびマザーレイクゴールズについて

1 これまでの取組について

「びわ湖の日」は、7月1日の前後1週間に県内全域で10万人以上が環境美化活動を行うなど、琵琶湖への思いをみんなで共有し、環境保全に取り組む象徴的な日となっている。

平成23年の「びわ湖の日」30周年を契機に、「琵琶湖をきれいにしよう」に加えて、「豊かな琵琶湖を取り戻そう」、「もっと琵琶湖に関わろう」の3つを展開の柱とし、企業、大学や民間団体等との多様な連携のもと、「びわ湖の日」の活動を推進してきた。

【主な取組】

琵琶湖をきれいにしよう

- ▶ びわ湖を美しくする運動

豊かな琵琶湖を取り戻そう

- ▶ 外来生物駆除の取組

琵琶湖にもっと関わろう

- ▶ 「広める」: 琵琶湖の価値やびわ湖の日の意義を発信
- ▶ 「食べる」: 身近なことから琵琶湖に関心をもつ
- ▶ 「学ぶ」: 琵琶湖や暮らしとの関わり学ぶ

2 令和3年度の方向性について

昭和56年に「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」(通称「琵琶湖条例」)の施行1周年を記念して7月1日を「びわ湖の日」と決定し、今年40周年を迎える。

今年度は、マザーレイク21計画の多様な主体との協働の仕組みを継承するものとして、7月1日に琵琶湖版SDGsであるマザーレイクゴールズ(MLGs)が策定される。これらの目標達成には、県民一人ひとりの環境保全行動が不可欠である。

「びわ湖の日」40周年を契機に、滋賀の豊かな自然環境を“守り”、“活かし”、森・川・里・湖・海が織りなす多様な価値やびわ活を発信しながら、これまでの取組を振り返り、今を見つめなおし、これからの考え、行動するきっかけづくりを進め、「琵琶湖をとりまく環境の保全再生と自然の恵みの活用」を目指す。

3 令和3年度の取組について

- (1) 子どもから大人まで世代を超えて琵琶湖(滋賀の自然)に思いを寄せ、環境保全について考えていただくきっかけづくりを進める。
- (2) 環境保全の視点のみならず、食や農、観光や暮らしなど、様々な視点から人と自然との関わりを創出する。
- (3) 庁内内部局横断的に取り組むとともに、全県的、さらには下流域においても盛り上がるよう、市町、包括的連携協定締結企業や大学、環境保全団体、その他団体等と連携、協働を進める。

(補足)「びわ活」とは、びわ湖の日(7月1日)を中心に、琵琶湖を守る、琵琶湖と暮らす、琵琶湖と親しむ、といった琵琶湖と関わる様々な取組や活動をいいます。

4 マザーレイクゴールズについて

マザーレイクゴールズは琵琶湖版 SDGs として、2030 年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、琵琶湖を切り口とした独自のゴールを設定するもの。

琵琶湖を通じて SDGs をアクションまで落とし込む仕組みが **MLGs** であり、MLGs の取組は SDGs の達成に貢献するもの。

7月1日に策定され、7月11日に開催する「びわ湖の日 40周年記念シンポジウム」で発表する。



Mother Lake Goals

変えよう、あなたと私から



5 40周年記念事業

(1) びわ湖の日 40周年記念シンポジウムの開催

日時：令和3年7月11日（日）13:00～16:00

場所：琵琶湖博物館大ホール

内容：「びわ湖の日」の取組から、「CO2 ネットゼロ」を絡めて「MLGs」へつなぐ構成

オープニング	「びわ湖の日」40年の振り返りと現在、未来につながる映像放映
開会あいさつ	知事
基調講演	<ul style="list-style-type: none"> ・ココリコ 田中氏「びわ湖の生物と今後について」（仮） ・気象予報士 片平 敦氏「地球温暖化がびわ湖に及ぼす影響と今後について」（仮）
活動事例報告	<ul style="list-style-type: none"> ・黒川 琉伊氏（琵琶湖博士ちゃん） ・エコ・スクール認定校（令和2年度に新規認定した、葛川小学校（大津市）と高時小学校（長浜市）の2校） ・株式会社ヤマムログループ（CO2 ネットゼロ）
知事対談	知事と一般社団法人インパクトラボ代表理事上田隼也氏の対談 基調講演、活動事例の内容を振り返りながら、これからの滋賀県・琵琶湖について、特に MLGs 策定までの思いやびわ湖との約束について対談。MLGs 動画（約2分）放映。
閉会	出演者によるびわ湖との約束発表およびエンディング <ul style="list-style-type: none"> ・知事、ココリコ田中氏、気象予報士片平氏、活動事例報告者、（一社）インパクトラボ代表理事上田氏

新型コロナウイルス感染症を配慮し、インターネットによる配信も実施

- (2) ワークショップ（ミニセミナー）・ブース出展
県内商業施設、学校等で実施
- (3) 環境保全啓発パンフレットの制作
主に県内小・中学校の児童生徒を通じて家庭に配布（6月）
- (4) 多様なメディアによる普及啓発
びわ湖放送でのCM放送、SNS広告（6月～8月）
- (5) 琵琶湖への思い募集
7月1日より絵手紙を募集し、令和4年1月以降県内商業施設等で展示

6 庁内連携

(1) 7月1日「びわ湖の日」企画

7月1日「びわ湖の日」の県内での取組や、「びわ湖の日」の歴史や意義等について周知する企画を実施。

出演者：知事、ゲスト（調整中）、司会：調整中

配信方法：県広報課 YouTube チャンネル（当日生配信）、

BBC テレビプラスワン（7月1日以降に、生配信した映像を編集して放送）

(2) ここ滋賀「びわ湖の日」企画

- ・期間：7月1日前後の1～2週間

- ・内容：パネル展示、レストランでの「びわ湖の日」関連メニュー提供

(3) 企画募集

- ・MLGs 動画募集：琵琶湖に関する動画を募集

- ・「びわこのちから」発見！フォトコンテスト作品募集：琵琶湖をはじめ、山や川、人々の暮らしなどに関する写真を、メッセージとともに募集する。（琵琶湖博物館）

(4) イベントでの情報発信

- ・全国植樹祭カウントダウンイベント

- ・イナズマロックフェス（おいでーな滋賀体感フェア）

(5) ワークーションの推進

滋賀県ならではのワークーションを推進するため、「びわ湖の日」に関連した活動をワークーションプラン等に組み込む。

7 パネル展示

○県内商業施設での展示

「びわ湖の日」の意義や、森・川・里・湖のつながりを意識した、琵琶湖をはじめとするさまざまな自然の価値や魅力を知っていただく。

- ・ ビバシティ彦根：6月18日～7月2日
- ・ 近鉄百貨店草津店：6月30日～7月6日
- ・ イオンモール草津：7月2日～25日

○県外発信

- ・ 琵琶湖疏水記念館：7月1日～31日
- ・ 下水道展（大阪）：8月

8 講座

○連続講座

持続可能な社会づくりに向けて、一人ひとりができることについて新たな気づきを得ていただくことを目的に、県と立命館大学および龍谷大学の連携による連続講座を開催する。

- ・ 立命館大学：7月～8月 3講座
- ・ 龍谷大学：10月～1月 3講座
- ・ 対象：一般の方々
- ・ 開催方法：zoomによるオンライン開催

○県外学校での講座

琵琶湖の価値や課題の発信、森・川・里・湖のつながりを意識した授業を行い、琵琶湖や滋賀県の自然の保全活動・保全行動へつなげる。

- ・ 東山中学校（京都市）：10月～12月 3回程度

9 情報発信

- ・ びわ活ガイド（県ホームページより、県内イベント情報を発信）
- ・ 県広報媒体（滋賀プラスワン、教育しが）
- ・ 成安造形大学との連携で作成した、「びわ湖の日」40周年ポスター1,850部を、県内学校（小中高）・大学、コンビニ、大型商業施設、JR駅等に掲出依頼

10 企業における取組

(公財) 伊藤忠記念財団	冊子「びわ湖を学ぼう」を電子化し、全国の学校、図書館等へ配布	5月
JR西日本	県内駅にポスター掲出	6月～7月
コープしが	「びわ湖の日」40周年や魚のゆりかご水田について記載したチラシを組合員に配布	6月
イオン	県内店舗で県産商品を発売	7月
第一生命	MLGsについて記載したチラシを配布	5月～7月

その他、「びわ湖の日」記念商品の発売

※上5～8に記載の内容は、新型コロナウイルス感染症の状況により変更の可能性あり。